

Sakurabito

さくらびと

佐野日本大学高等学校 同窓会 桜友会報

桜友会が発行する「さくらびと」は同窓生をつなぐ、コミュニケーション誌です。



Sakurabito Special Interview | 創立60周年記念鼎談 | P1

理事長 **長谷川 弘**
Hiroshi Hasegawa

高等学校
校長 **渡邊 明男**
Akio Watanabe

同窓会
会長 **平野 一昭**
Kazuaki Hirano

| 羽ばたく人たち | P3

- 八津 弘幸 - 脚本家 -
- 野沢 卓史 - フライングガーデン -
- 多田 善洋 - 館林市長 -
- ▼ スポーツ選手編
- 野澤 陸 - ヴァンフォーレ甲府 -
- 本石 捺 - FC岐阜 -
- 弓削 隼人 - 東北楽天ゴールデンイーグルス -
- 田嶋 大樹 - オリックス・バファローズ -
- 五十幡 亮汰 - 北海道日本ハムファイターズ -

| 仕事 × 情熱 | P5

SAKURABITO WORK STYLE

- 麻布さおとめ
五月女 広之 Hiroyuki Saotome
- 茶禪華
川田 智也 Tomoya Kawada
- Boulangerie Monogatari
酒本 正輝 Masaki Sakamoto

● 同窓会からのMessage & 桜友会活動報告 ● 活躍する先生の話。 ● School Info.

2021
Vol.06

未来へ手渡す、 始まりの章

学園創立60周年を間近に控え、

同窓生と在校生の

「つながり」に焦点を当て、

同窓会をさらに活性化するため

新たな挑戦が始まった。

60周年の記念事業が前倒しで進行する母校。およそ2年後の記念式典を控え、目玉となるいくつかの整備事業が進み、教育環境はさらに拡充される予定だ。

そこで本誌では、長谷川理事長、渡邊校長、平野会長による三者鼎談（ていだん）を開催。本校が目指す教育の姿や同窓会のあり方などについて、未来視点で語り合った。



同窓会
会長 平野一昭
1976年卒〔10期生〕
平成31年(2019年)1月に
第4代同窓会長に就任

佐野日本大学学園
理事長 長谷川弘先生
1979年卒〔13期生〕
平成31年(2019年)4月に
第7代理事長に就任

高等学校
校長 渡邊明男先生
平成29年(2017年)4月に
第9代高等学校長に就任

Q「さくらびと」の発行は実に2年ぶりとなりました。その間、新型コロナウイルスの感染拡大により予期せぬ事態に見舞われましたが、このたび第6号を発行する意義について尋ねてみました。

●平野会長（以下「会長」）：コロナ禍は同窓会活動にも大きく影響し、毎年恒例の総会や新春のついで、創立記念日に開催されるチャリティーゴルフコンペなどのイベントが軒並み中止になりました。足かけ2年にわたり同窓生間の交流が断たれたわけですが、それだけに「同窓生をつなぐコミュニケーション誌」である本誌の発行は、これまで以上に大きな意味や意義があると思っています。

Q学園創立60周年（2024年）が近づいてきました。本校としての今後の取り組みや、教育方針などについてお聞かせください。

●長谷川理事長（以下「理事長」）：学園は60年の長い歴史の中で、節目にあたる年に記念事業を実施し、教育環境を整えてきました。例えばスタジアム30やプラザ40などが記念事業で、60周年にあたってはすでに前倒しして整備を推し進め、サッカー場の人工芝化が2020年に完了しています。今後予定しているのはレストラン棟の建設で、1号棟跡地に2024年までに整備する計画です。日々、勉強や部活動に励む在校生のみならず、朝・昼・夕の3食ともに温かい食事を提供するなど、健全な食生活の一助になることを願って、食の面からもサポートしていきます。

その他にも、本校の象徴である正門前の桜を含めた植栽整備や、軟式テニスコートの改修などを予定しています。現在は学び舎としての景観づくりを含め、伸び伸びと快適に過ごせる環境整備を着々と進めているところです。



一方ソフト面ではICTを活用した教育にますます力を入れ、最先端技術で在校生のみならずの学習機会を広げ、能動的かつ深い学びにつなげていきたいと考えています。

●渡邊校長（以下「校長」）：「60」という数字の重みと、歩んできた歴史の長さを感じます。日本大学の前身は学祖山田顕義先生が1889年に創立した日本法律学校ですが、校訓である「自主創造」「文武両道」「師弟同行」は、山田先生のDNAそのものといっても過言ではありません。60周年という大きな節目にあたっては、そのDNAを受け継ぐとともに、現在の本校教育の4本柱である「BIC」(Basic ICT Global Inquiry-based Learning)の取り組みをますます加速させます。



2022年から高等学校では新しい学習指導要領がスタートしますが、本校ではすでに、導入に向けた教育改革に取り組んでいます。キーワードは「個別最適学習」、具体的には、多様な生徒たちを誰一人取り残さない、公正に個別最適化された学びの提供を意味します。

この個別最適学習に欠かせないのが、長谷川理事長が触れたICTの活用です。先進のAIを搭載した次世代型学習システムなどをフル活用して、個々の生徒の理解度に合わせた適切な学びの機会を提供します。

これは4本柱の一つである「探求学習(Inquiry-based Learning)」ともリンクしていて、ICTを活用しながら最適解を追求する能力を身に付けるなど、生徒一人ひとりが社会に出て活躍するための基盤づくりに力を入れます。

その一方で、「グローバル教育」の視点も欠かせません。ご存知のように本校は、かねてより国際交流活動が盛んで、アメリカ、イギリス、中国、ハンガリー、ニュージーランドなどの国々と姉妹校協定を結び、学びの機会を広げてきました。独自の国際交流プログラムに基づいた海外研修や留学を推進する中で、今はSDGsについて学ぶ機会を積極的に増やしてい

くなど、国際的な視野を持つ人材育成に努めます。

Q同窓会の存在意義や役割、さらなる活性化などについてお聞かせください。

●会長：わが同窓会は発足55年目に入りました。当初158名で始まった同窓会ですが、2021年3月（55期）の卒業生を含めて3万3661名を数えるなど、大きな組織になりました。同窓生の活躍は多方面に及び、政界、プロスポーツ界、芸能界、クリエイティブ業界、飲食業界など、地域への雇用創出に貢献している方も数多くいます。こうした諸先輩方の活躍ぶりを在校生に伝える取り組みは、今後ますます重要になってくるはずですが、例えば、高等学校、中等教育学校、短期大学の各同窓会が連携し、合同で同窓会活動を推し進めるなど、これまでの枠組みを超え、「知る機会」「気づく機会」を提供できれば本望です。

さらに同窓会の発展や活性化のために、外部に向けたPR活動にも力を入れ、母校の素晴らしさを積極的に発信していきたいと思っています。

●理事長：学校を支えている同窓生、在校生、教職員、PTA、応援企業の5つの柱が互いに連携・協調していることに、同窓会の存在意義があると考えています。互いに尊重し合いながら、この5つの関係性をこれからもより強固にしていきたいと思っています。一方、活性化の視点では、同窓生と組織された経済校友会の立ち上げなど、新たな仕組みづくりに挑戦していきたいと思っています。

●校長：本校の一番の特徴は教師と生徒が共に手を携えて成長していく「師弟同行」だと思っています。同窓生の多くは卒業後も何らかのつながりを持つなど母校愛が強く、それは日々の同窓会活動を通じても感じているところです。

そうした同窓生の活躍を、キャリアモデルとして多くの方々に伝えるために、公式ホームページで「サニチヒーローズ」として紹介しています。在校生にとっては諸先輩方の活躍を知る絶好のコンテンツです。同窓生のみ

なさんもこれを機会に、ぜひご覧いただければ幸いです。また、この60年の間に、親子三世代で同窓生というご家族も珍しくありません。そこで今後は、SNSなどコミュニケーションツールを活用して世代を超えた同窓生間のネットワークを構築し、「つながり」や「絆」をテーマに、同窓会活動をさらに活性化させていきたいと考えています。

Q同窓生の方々にメッセージをお願いします。

●校長：在校生が日々勉学に励むことができるのは、諸先輩方が築き上げた60年という長い歴史の上に立っているからだと思えます。同窓生の方々の今までのご努力に感謝するとともに、「さまざまなご支援」に対し改めて御礼申し上げます。また、多方面で活躍する同窓生の姿はとてもよい刺激となっており、在校生のモチベーションアップにつながっています。

そういった意味では、在校生と同窓生の絆を大切に、もっともっと交流を深めていければ本望です。いつでもお気軽に、学校に足を運んでいただければ幸いです。

●理事長：佐野日大の卒業生であることを誇りにしてほしい……。そんな思いで日夜教育活動に励んでいます。

ご存知のように、オープンで風通しのよい校風は、60年にわたり連続と続いてきた私たちの財産です。同窓生の方々にはそんな校風に今一度触れていただきたいと思っています。校舎に気軽に足を運べるのは同窓生の特権です。いつでもお待ちしております。

●会長：同じ学び舎でともに学び、そこで築いた仲間との絆はかけがえない財産です。その絆を先輩後輩分け隔てなく深める場として、ぜひとも同窓会をご活用ください。



「羽ばたく人たち」

同窓生の活躍は多方面に及び、政界をはじめ、プロスポーツ界、芸能界、文化人、会社経営者などさまざまに数知れないほじり。そのなかでも今最も注目を集める3人に焦点を当てた。さまざまな場所で輝くさくらびとが、今何を思い、この先の未来に何を描くのか。夢に向かう第一歩をともし歩んでみた。



1990年卒 [24期生]

高校卒業後、日本大学芸術部に進学し、脚本家となる。主な作品に『半沢直樹』『ルーズヴェルト・ゲーム』『下町ロケット』『おちよん』などがあり、第87回ザテレビジョンドラマアカデミー賞では『下町ロケット』が脚本賞を受賞した。2019年には栃木市ふるさと大使に任命されている。

脚本家

八津 弘幸 さん

Hiroyuki Yatsu

「小さい頃から文章を書くことが好きだったというわけではなかったですね。大学で演劇学科に入ってから、芝居のおもしろさに惹きつけられて、今に至っている感じですよ」と微笑む。

高校時代について何うと「家から学校まで往復で20キロ位あったのですが、自転車を通っていたので、部活に入っていませんでしたし、行き帰りの通学だけで精一杯という感じでした。なので、電車通学とかにありがちな青春エピソードみたいなものは無縁でした」と笑う。

学校生活においては「友人たち数人とマンガを描いたり、好きなアニメや映画の話で盛り上がり、いたって普通の高校生でした」と素朴な人柄を滲ませた。

好きなことの延長線上にあった脚本家という夢。大学卒業後、20年にも及ぶ下積み時代を経て、42歳で人生のターニングポイントを迎えた。

「半沢直樹は、銀行を舞台にした日本版『トウエンティフォー』にしかかったんです。次から次と敵や裏切り者が現れ、それでも主人公は道を切り拓いていく。そうしたスリルが、池井戸潤先生の原作にある銀行や作品の世界観にマッチした」と、主人公を演じた堺雅人さんの素晴らしい演技力があつたからこそ、『半沢直樹』はあそこまでの作品になったんだと思います」と語る。

脚本を書く上で大切にしていることを「根底にあるのは、見ている人に楽しんでもらいたいという想いです。だからこそ、いい意味で視聴者を騙したい、いつでも予想を裏切る展開でありたいですし、人を笑しませる嘘がつけると脚本家でありたいと思っています」と語った。

大胆な構成功とエンターテインメント性を兼ね備えた作品で人々を魅了し続ける八津さん。「今後の夢は、日芸の演劇学科出身なので、舞台もやってみたくて思っています。いつか地元をテーマにした脚本も書いてみたいですね」と笑顔で浮かべた。これからの八津さんの驚きと感動を与えてくれることだろう。

「や」

られたらやり返す、倍返しだ!!」の台詞で「大ムーブメント」を巻き起こした『半沢直樹』。最終回は42.2%という驚異の視聴率を叩き出し、平成の民放ドラマでは歴代1位の記録を樹立した。

ドラマの脚本を手掛けた八津弘幸さんは本校の24期生。本格的に脚本家を目指すと思ったのは大学時代だったそうで、演劇の脚本を書き始めたことがきっかけだった。

「爆」

弾ハンバーグ」の名で愛される「フライングガーデン」。創業者である野沢八千(やじま)さんは、ホスピタリティを大切にするアメリカの外食産業からヒントを得て、チェーン展開をはじめた。郊外型レストランは地域に根付き、茨城栃木群馬埼玉千葉の5県に59店舗を展開している。

代表取締役社長の野沢卓史さんは、創業者である父、八千さんの次男。「物心ついたころから父の仕事で忙しかったので、ほとんど家にいませんでした。同級生の家に遊びに行くと、夕方友人のお父さんが仕事から帰ってくるのですが、「なぜこんな早い時間にお父さんが帰ってくるのだろう」と不思議に思っていた時期がありました」と幼い頃の記憶を語り、今の自分と照らし合わせた。

高校時代について尋ねると「入学時に3年間皆勤賞を取ることを決意しました。高2のとき、フライングガーデンが25周年を迎える式典があり、家族や身近な人々を呼んでお祝いをしたことがあります。

その大事な式典を休み、皆勤賞を取るために学校へ行った記憶があります。結果的に3年間皆勤賞を取ることができました」と笑った。

そんな卓史さんだったが、就職を考慮する時期になると、さまざまな葛藤があったという。「後継者になりがちな話ではありましたが、自分自身が努力しても、その評価に親の功績がついて回ることが気になり、フライングガーデンへの入社を思い悩みました」と苦悩を明かした。

しかし30歳を機に、創業者の息子として生まれた運命を受け入れ、入社した。自ら現場を見て回り、お客様視線を軸とした店づくりを徹底し、温故知新の精神で、良いものは伸ばし、改善すべきところにはメスを入れていった。

その結果、業績は右肩上がりとなった。卓史さんは「父の存在を超えるのではなく、築きあげてきたものを守りながら、組織全体をさらにブラッシュアップしていくことが私の仕事です」とこれからの未来を見つめた。

1998年卒 [32期生]

高校卒業後、日本大学経済学部に進学。喫茶店を経営した後、2011年に入社。外食産業の経験を活かし、お客様の目線に立ったサービスのブラッシュアップを図った。2017年に専務取締役役に就任し、その後代表取締役副社長を経て2021年6月より代表取締役社長に就任した。



株式会社フライングガーデン 代表取締役社長

野沢 卓史 さん

Takafumi Nozawa



今



1978年卒 [12期生]

高校卒業後、日本大学経済学部に進学し、大手企業に入社。16年勤務したが帰郷し、不動産管理業を営む。街づくり活動に参加し、市政の道へ。2006年に市議会議員に初当選したのち、副議長、議長を経て2017年に群馬県議会議員に就任した。対話・協働行動を軸にした街づくりを掲げ、2021年4月に館林市長に就任した。

館林市長

多田 善洋 さん

Yoshihiro Tada



年(2021年)4月に誕生した館林新市長の多田善洋さん。16年間に及ぶサラリーマン生活を経て、生まれ故郷である館林のために立ち上がった。その背景について「38歳の頃に帰郷し、商工会議所青年部を通して街づくりに奔走していました。そのとき、館林に足りないものが多いと感じたことがきっかけで、46歳で市議会議員に立候補させていただき、仲間や地域の方とともに館林を盛り上げていきたいと思ったことが始まりです」と語った。

『対話・協働行動』を掲げ、市民とともにによりよい街づくりを目指す多田さん。具体的には「館林全市民の責任者として、雇用の確保と移住定住に対する問題に取り組みしていきたいと思っています。また、魅力ある街づくりの「環」として、大型商業施設の誘致や産業団地の開発などに力をいれたいとも思っています」と指針を語った。

市長室には一枚の絵画が飾られてある。

遠くに浮かぶ山々が美しい色合いで描かれており、深い情景を物語っている。それは本人が描いた一枚で、故郷を愛する想いが伝わるものだった。高校時代は美術部に所属していたという多田さんに、高校時代の思い出について伺ってみると「学生美術展に出す作品を一生懸命描いていたという思い出があります。当時、美術部のレベルがとても高く、現在、画家として活躍している人もいるほどだったので、自分はまったくついていきませんでしたね」と笑いながら語り、美術部での活動を懐かしんだ。

市長になった今、多田さんの思い描く街づくりを伺うと「高校時代は自立した方でしたが、地元の同窓会長になったようなつもりで、みんなが住みたい街づくり、人々が誇れる街づくりを、市民の方とともにつくっていきたくて思っています」と語った。館林の未来は多田さんの描いた絵画の美しい色合いのようにキラキラと輝いていくのだろう。

「羽ばたく人たち」

スポーツ選手編

プロサッカー選手



©2021VFK

ヴァンフォーレ甲府 [2021年入団]

Riku Nozawa
野澤 陸
選手

2017年卒 [51期生]



©Kaz Photography/FC GIFU

FC岐阜 [2021年入団]

Natsu Motoishi
本石 捺
選手

2017年卒 [51期生]

プロ野球選手

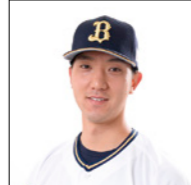


©Rakuten Eagles

東北楽天ゴールデンイーグルス [2018年ドラフト4位]

Hayato Yuge
弓削 隼人
選手

2013年卒 [47期生]



©ORIX Buffaloes

オリックス・バファローズ [2017年ドラフト1位]

Daiki Tajima
田嶋 大樹
選手

2015年卒 [49期生]



©H.N.F.

北海道日本ハムファイターズ [2020年ドラフト2位]

Ryota Isobata
五十幡 亮汰
選手

2017年卒 [51期生]

【茶禅華 料理長】

川田 智也 さん

2001年卒 [35期生]
Tomoya Kawada



高校時代に得たものが
料理の世界で生きている

茶禅華

東京都港区南麻布4-7-5

中国から受け継いだ文化を日本独自の文化と調和させ、新しい世界観をもつ日本文化として表現する『和魂漢才』をコンセプトとした人気店「茶禅華」の料理長。2017年にオープンし、2020年、2021年にミシュラン三ツ星に輝いた。



2 022年には店を移転し、**新**店舗としてオープンする「Monogatari」。オーナーの酒本正輝さんは29歳で独立し、本校地元の最寄駅でもある佐野駅前店舗を構え、8年目を迎える。

フランス産の小麦粉と硬水を使った、本場の味が楽しめるバゲットをはじめ、ここでしか味わえないパンを求めて、常連客が足繁く通う。

「店内には小麦の配合が同じパンはひとつとしてありません。小麦の状態が日々変化するので、それに対応しながら作っています」と語る。焼き上げた手作りパンを眺めながら、「常にお客様に楽しんでいただけるように、新しい材料で、新しいパンができればいいか模索し続けています。今は、玄麦を使ったパン作りにも挑戦しています。新店舗で提供できるよう、調整中です。店舗自体も大きく変わるので、イトインスペースを設けたり、惣菜やワインなどの販売も行っていきたいと考えています」と意気込みを語る。

高校時代は陸上競技部に所属し、主将を務めていた。走幅跳びと短距離走の2種目に、高校時代のすべてをかけた。現在高校で陸上競技部の顧問を務める今井雄紀先生とは同級生であり、ともに競い合った仲であることを明かしただうえ

で、「インターハイで2連覇を達成してしまうような人だったので、彼にはまったく敵わなかったですね。でも今井さんと切磋琢磨したことが一番の思い出です。彼を見ていて、全国レベルで戦うことがどんなに大変なことなのか痛感したので、陸上で上を目指すという選択はなくなりました」と振り返る。

卒業後は進路を変え、料理の道へと進んだ。専門学校で中華を学び、料理人となったが、製菓に興味を持った酒本さんは、世界的パティシエとして有名な鑑塚俊彦シェフのもとを訪れ、直談判に行き、弟子入りを果たす。そこで6年間修業を積んだのち、バゲットの名店「VIRON(ヴィロン)」の門を叩き、4年間パン作りで没頭した。

陸上から中華、製菓、そしてパン作りに至ったこれまでの道のりを振り返り、「経験してきたことはバラバラですが、パン作りの道を選んだことで、今まで学んできた技術はすべて活かされています。やってきたことはすべてムダではないし、次に活かせると思っっている。やってみたいと思っただけの手を伸ばすことが重要だ」と思い、新たな挑戦。酒本さんの紡ぐ物語はまだ序章にすぎない。

幼

い頃、両親とともに訪れた四川料理の店で、中華料理の美しさと味に感銘を受け、料理の世界に興味を持ったという川田智也さん。2020年、2021年に自身が料理長を務める「茶禅華」で、中華料理の分野では日本初となる、ミシュランの三ツ星を獲得した。

川田さんは高校時代、バレーボール部に所属し、仲間とともに全国制覇を目指していた。だが、高校最後の大会で夢破れた。「心不乱に練習に打ち込んできた川田さんは絶望感に打ちひしがれ、しばらくの間、なにも手につかなかったという。最後の試合に負けたときは、自分の人生が終わったと思うほどでした」

そんな川田さんを救ったのは、幼少期に憧れを抱いた、中華料理で日本一を目指すという新たな野望だった。料理人を志した川田さんは、高校卒業後、「麻布」でアルバイトをしながら専門学校に通い、中華料理の基礎を学んだ。卒業後は社員として働き、26歳のときに副料理長となり、28歳までの10年間、修業を積んだ。その後、「龍吟(りゅうぎん)」の門を叩き、5年間日本料理の神髄を学んだ。

「修業時代はいろいろなことを教わり、心の弱さをも痛感しました。『高校時代、自分に勝てな

かったから、あの時試合で負けたんだ」と何度も思いました。しかし、部活動に必死で取り組んだことで、今の自分の根幹となるものを得ました。それが今、料理の世界でも生きていっていると思えます」と語った。

中華料理と日本料理が調和を遂げた、華やかなメニューが楽しめる「茶禅華」。川田さんが目指すのは、「和魂漢才」の世界。「和魂漢才」とは、もともと文字の無い日本が中国の歴史や文化の精髓を吸収し、「漢字」や「ひらがな」、「カタカナ」を交えた「日本語」が創られたように、中国から伝来したものを日本の文化と調和させ、「新しい日本文化として昇華する」という意味を持つ言葉なのですが、それを体現できるような中華料理を目指していきたいです」と語った。

これまでの道のりを振り返り、川田さんは「高校時代に打ち込んだバレーボールは、人生の様々な要素が詰まっているスポーツだと思っています。自分自身の精神鍛錬はもちろん、相手やどう動くかという世の中を読む動き、仲間や相手に対する配慮など、どれも料理の世界に必要なものはかりでした。それを3年間しっかりと学ばせていただいたからこそ今があると思っています」と笑顔を見せた。

ブーランジェリー・モノガタリ

Boulangerie Monogatari

栃木県佐野市高砂町67

料理人を志し、有名店の門を叩いて修業を積んだ。その後さまざまな経験を経て、素材にこだわった手作りパンの店を2014年にオープンさせた。看板メニューのバゲットをはじめ、個性豊かな商品が並び、地域の人々に愛されている。



【Boulangerie Monogatari 店主】

酒本 正輝 さん

2004年卒 [38期生]
Masaki Sakamoto

【麻布さおとめ オーナーシェフ】

五月女 広之 さん

1975年卒 [9期生]
Hiroyuki Saotome



研究を重ねた先にある
独創性に富んだ和の心

あざぶ

麻布さおとめ

東京都港区西麻布3-1-9

アムステルダムからロンドン、香港など、海外で和食の料理人として腕を振るってきた経験を活かし、和と洋を織り交ぜた、独創性の高い料理を提供する。ここでしか堪能できない味を求め、多くの著名人が足繁く通う。



西 麻布の路地裏にひっそりと佇む「麻布さおとめ」は、2019年の11月にオープンした**新店**。モダンな外観と、和の雰囲気が出た店内。間接照明が木のぬくもりと相まって、ゆったりとした時間が流れる。

オーナーシェフの五月女広之さんは、高校卒業後、実家の寿司屋を継ぐために「銀座 久兵衛」で修業し、寿司職人の道を歩みだした。8年間の修業後、地元に戻るつもりだったが、25歳のときに、アムステルダムにある日本料理店「山里」で働く話が舞い込み、そこで働くうちに、日本料理の奥深さに惹かれ、和食の料理人へと転身することを決意した。

帰国後、本格的に和食の道へと進み、修業を積んだ。そんなとき、かつての仲間からロンドンに新店を出店するにあたり、「一緒に来ないか」と誘われ、渡英した。その後ロンドンの「ZORIE」で腕を磨き、海外でも指名が来るほどの料理人となった。2009年に香港で出店した「Kaiseki Den」では、創業時から11年間ミシュランの三ツ星を獲得し続けるという快挙を成し遂げた。

そんな実力の持ち主である五月女さんに、料理をつくるうえで、日本と海外で大きく違

うことについて尋ねると「海外で一番苦労したのは水です。日本は軟水なので出汁の味がまろやかにやすいのですが、ヨーロッパは硬水なので、昆布の出汁がとりにくいため、どのミネラルウォーターが一番日本の水に近いのか実験したりしましたね。水もそうですが、食材も日本とはまったく違うので、その土地その土地の食材をどう活かすかいろいろ考えました」と試行錯誤を繰り返した日々を語った。

海外の方にも和食を楽しんでいただけるよう研究を重ね、独創性のある料理を生み出し続ける。人気メニューである「土鍋ウニトリユフご飯」はその代表例。「リゾットが好きで海外でよく食べていたのですが、ごはんを土鍋で炊いたらおいしいだろうという発想から生まれました」とメニュー誕生の裏側を語ってくれた。

世界をまたにかけて活躍する五月女さんはどんな高校時代を送ったのかを尋ねると「あの頃は楽しかったですよ。やはり部活の思い出が多いですね。硬式野球部に所属していたのですが、新しい監督が就任してきて、厳しさという意味での緊張感が増したのを覚えていました。将来的に強豪校になる予感を感じていましたね。もう44、45年前の話ですが」と笑い、高校時代を懐かしんだ。

仕事



情熱

SAKURABITO
WORK STYLE

平坦な道ではなかった。それでも料理人の道を選んだことに意味がある。自分が見出した先の答えに、情熱の火を燃やし続けるさくらびとの、これまでとこれからの物語。

部活動に打ち込んだ高校時代。挫折や敗北を味わい、そこから学んだことで、心の強さを手に入れた。料理人として生きる決意をしたさくらびとたちの、日本から世界へ向けた挑戦の物語。人生の第2章として自分自身が導き出した答えに、さらなる情熱をたがらせ、新たな未来へと走り出した3人に話を伺った。

いつでも最新情報をチェック



同窓会 ホームページ
<http://www.sanichi.info/>



リニューアルしました!

高等学校
 ホームページ
<https://high.sano-nichidai.jp>



リニューアルしました!

中等教育学校
 ホームページ
<https://ss.sano-nichidai.jp>

フォロー・いいね
 お願いします!



高等学校
 公式Twitter



高等学校
 公式Instagram



同窓会行事予定【令和4年→令和5年】

1月15日(土) 令和4年 同窓会総会* ※縮小予定	【令和5年】 1月14日(金) 令和5年 同窓会総会
2月28日(月) 同窓会入会式	新春のつどい
5月1日(日) 第46回チャリティーゴルフコンペ	還暦を祝う会
10月4日(火) 第47回チャリティーゴルフコンペ	古希の祝い
ご参加をお待ちしております	その他 母校を訪ねる会など

同窓会
 支部長
 紹介

- ① 佐野支部 大島 準(24期)
- ② 安藤支部 縫田 富士雄(11期)
- ③ 館林支部 松本 喜芳(12期)
- ④ 埼玉支部 片山 彰人(9期)
- ⑤ 宇都宮支部 中島 敏雄(10期)
- ⑥ 桐生支部 小山 貴之(18期)
- ⑦ 太田支部 内田 親孝(7期)
- ⑧ 足利支部 江田 豊(32期)
- ⑨ 栃木支部 亀田 智(13期)
- ⑩ 学園支部 湯澤 輝雄(1期)

詳しくは同窓会ホームページ【<http://www.sanichi.info/>】をご覧ください。お問い合わせはSakurabitoメールまでsakurabito@sanonihon-u-h.ed.jp



チアリーディング部
 USA Japan チアリーディング&ダンス学生選手権大会 2021
 Virtual 高校編成 Show Cheerleading部門 Novice 第1位



剣道部
 インターハイ出場
 男子団体4年連続7回目・男子個人 荒井 孝征さん(後列 左から2番目)



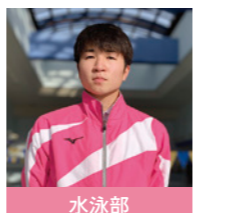
ゴルフ部
 関東高校ゴルフ選手権大会夏季大会
 男子団体 優勝 16年ぶり
 全国大会出場 35年連続



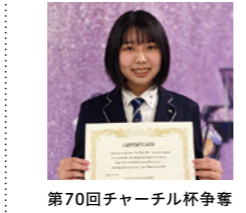
陸上競技部
 インターハイ出場
 (男子1,500m)
 滝澤 愛弥さん



クリケット部
 日本U19クリケットリーグ
 優勝
 藤川 季与さん



水泳部
 アジアユースパラ競技大会水泳17,18歳の部 S6-S10 優勝
 大島 加巳琉さん



第70回チャリティー杯争奪
 全日本高等学校生英語弁論大会東日本大会 優勝
 (中等教育学校)大木 真希さん



第41回国際理解英語弁論大会関東甲信越静大会 優秀賞
 関田 真愛さん

桜友会 活動報告

館林市長及び佐野市議会議員を囲む会を開催しました。



令和3年4月に多田館林市長は本校卒業生初の首長として誕生し、佐野市議会議員には同窓生他8名が見事当選いたしました。来賓に日本大学校友会栃木県支部長・栃木県知事の福田富一様と佐野市長の金子裕様にお越しいただき、お祝いの言葉をいただきました。

同窓会からの
 Message



本校の同窓会は発足55年目を迎えます。55年前、158名で発足した同窓会も、2021年3月の卒業生を迎え入れると3万3661名となりました。そのなかには、各分野・各方面で活躍されている方が大勢いらっしゃいます。政界をはじめ、プロスポーツ界、芸能界、飲食業界、文化人、会社経営者など、例を挙げるときりがありません。我々はこの同窓会活動を通じ、同窓生の方々の活躍を広くPRしたいと考えております。

昨年から続く新型コロナウイルスの影響もあり、表立った活動が困難な状況ではありましたが、しかし、そのような場合でも情報の発信・拡散ができるSNS等の活用にも力を入れていきたいと思います。

これまで、在校生が活躍する駅伝やサッカー、野球、ラグビーなどの応援活動においては同窓会も全力をあげて取り組んで参りました。このコロナ禍により応援の機会も制限を受けてしまうことなどから、現地を訪れることができない状況下であっても、応援の熱量そのままに、同窓生の活躍を見守ることができるような体制を整えていきたいと思います。

本校では、同窓会活動のひとつの大きなテーマとして「絆」というものを掲げております。世代を超えて同窓生たちが手と手をとりあい、ふれあいを重ねていくことでその絆はより強固なものとなり、いつしか大きな輪となって同窓生や在校生をつなぐものとなってほしいという願いが込められています。

また、本学園では高等学校、中等教育学校、短期大学においてそれぞれ同窓会活動を行っております。今後は、それらを「佐野日本大学学園同窓会」と称して、一堂に会する新しい機会を設けてみてはどうかと考えているところであります。

同窓会という場所が皆様をつなぐ架け橋になれることを願いつつ、今後も母校の発展に努めてまいりたいと思っております。

活躍する先生の話。

おばあちゃんに
 なるまで
 踊り続けたいです

ダンス部顧問
 今井 千尋 先生
 2008年卒 [42期生]

高等学校体育教諭。日本女子体育大学在学中、全日本高校・大学ダンスフェスティバル創作部門において、最優秀賞の文部科学大臣賞を2度受賞している。

ダンス部顧問 今井千尋先生は本校の卒業生。3年間ダンス部に所属し、ダンス漬けの日々を送ったという。当時顧問だった先生に、技術以外にも礼儀や責任感など、人として必要なものを徹底的に叩き込まれた。そこで今井先生は自分自身が変わっていくのを実感したという。「体育の先生になろうと決めたのは、将来、その恩師の先生と一緒にダンス部の顧問をしたかったからです。結果的に一緒に指導することは叶いませんでしたが、私が恩師の先生と出会えて『新しい自分』に生まれ変わることができたように、「人はいつでも変わるチャンスがある」ということを教えてあげられたら嬉しい」と語った。

ダンス部のモットーは「自分を信じて仲間を信じて作品に愛を込めて心はひとつ」。創作ダンスとは、世界にひとつしかない作品を作り上げることであり、自分たちが作った作品を愛し、自分や仲間を信じて、愛情をこめて踊らなければ、心はひとつにならないという。ともに信頼しあい、溢れんばかりの愛を込めて踊るダンス。今井先生にとってダンスとは、生きることそのものだという。力強く美しく、生きている証を刻んでいるようだった。



人工芝サッカーグラウンド完成

敷地面積は1万882㎡に特殊な人工芝を採用したこと及び散水設備を完備することによって生徒の熱中症対策が十分に取られている。現在、体育の授業や部活動で使用されている。

2021年 進路情報

東大合格



文科
I類

船越 翔太さん



理科
I類

安藤 晃太さん



文科
III類

菊地 愛麗さん



理科
I類

金居 航平さん

現役合格率 98.1%

国公立大学46名合格 (大学校含む)

- 東京大学4名
- 山形大学(医)1名
- 横浜国立大学1名
- 千葉大学1名
- 群馬大学4名
- 大阪大学1名
- 筑波大学2名
- 国際教養大学1名
- 宇都宮大学4名
- 高崎経済大学4名 他

日本大学390名合格

- 法学部33名
- 経済学部25名
- 医学部2名 他
- 文学部39名
- 理工学部75名



コロナ禍における 自宅学習中の授業の様子

※感染状況に応じ通常授業ならびにリモート授業を行っています。

全国に先駆けて導入した校舎内の無線LAN整備から7年。世の中の環境も大きく変わり、その変化にも対応すべく新たなWi-Fi環境の構築に入りました。全生徒がiPadを利用し、いつでもどこでも積極的に学べる学習機会を広げ、能動的で深い学びに取り組んでいます。様々な経験と試行錯誤から生まれた母校ならではのICT教育をさらに活性化し、「自主創造」の気風に満ちた人材の育成を目指します。

Information

同窓会からのお願い

「Sakurabito」を読んでいただいている卒業生の皆様へ
同窓会では同封の振り込み用紙にて「同窓会年会費：3,000円」の納入を受け付けています。この同窓会報も皆様の会費によって発行させていただいております。卒業生の皆様にとって「再会」の場所となる同窓会に今後ともご協力をお願いいたします。

振込先口座 ▶00150-5-165360 ▶佐野日本大学高等学校同窓会
※最寄りの郵便局より年会費の振込みをお願いします。

卒業生の働く会社・店舗などの情報を募集しています！
自薦他薦を問わず随時募集中！

同窓会事務局 sakurabito@sanonihon-u-h.ed.jp
☎0283-25-0112

※皆様からいただいた卒業生の情報は、Sakurabito編集室にて検討のうえ掲載させていただきます。掲載されない情報もございますことを予めご了承ください。

注意事項

本誌掲載の個人情報、同封の振り込み用紙へ記入していただいた個人情報は、本人の同意なく開示することはありません。また、私たち佐野日本大学高等学校・中等教育学校及び同窓会ではその他の勧誘、ハガキの郵送は一切行っておりません。よって、出版社等を名乗る会社等から情報提供または代金振込みのハガキが届いた場合は、破棄していただくようお願いいたします。※誤って情報を提供してしまった場合、転売などの二次被害の恐れもあります。くれぐれもご注意ください。

本校卒業生に対する振り込み詐欺(オレオレ詐欺)被害にあわぬよう十分にご注意ください。未遂を含め複数件発生しています。



※購入は同窓会事務局まで

編集後記

同窓会発足60周年を控え、発行される今号は、「新しい」をテーマに、さまざまな人々の新しい取り組みに触れました。活みなぎる風を受け、今号が皆様の新しい道を開くヒントになれば幸いです。最後に、発行にご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

広報委員長 早乙女 吉男(1971年卒 [5期生])

Sakurabitoとは

「桜でつながる、人と人」母校のシンボルである「桜」と共に世を超えた同窓生「人と人」がつながり合う同窓会報として新しく生まれました。桜の花びらと一緒に表現されたつながり合うタイトルロゴは「再会」を表現し、私たちが過ごした母校の「現在・過去・未来」が詰まったコミュニケーション誌です。

